

III. 新たなインフラマネジメントについて

インフラメンテナンス国民会議(北陸ブロック)



- 「インフラメンテナンス国民会議」は、インフラを良好な状態で持続的に活用するため、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、様々な主体が参画し技術や知恵を総動員するプラットフォームとして平成28年11月に設立した全国組織です。
- 「北陸インフラメンテナンスフォーラム」は地方フォーラムのひとつとして平成30年3月に設立。
- 全国「インフラメンテナンス市区町村長会議」が令和4年4月28日の設立式典をもって発足。(北陸ブロックも同日発足)
→R8年度の全国インフラメンテナンス市区町村長会議は、5月14日(木)に「シェーンバツハ・サボー」にて開催予定。

北陸ブロック 令和4年度：R4.8.9新潟県民会館にて市区町村長会議(設立イベント)とフォーラムを同日開催。
 令和5年度：R6.1.28同日開催を予定していたが、能登半島地震により開催中止。
 令和6年度：R6.11.19富山県防災危機管理センターにて、ミニフォーラムを開催、R7. 1.28上越市文化会館にて市区町村長会議を開催
 令和7年度：R7.6.30(月)氷見市役所にて市区町村長会議を開催、R7. 7. 3(木)富山県防災危機管理センターにてフォーラムを開催
 令和8年度：R8.7.28(火)かほく市役所にて市区町村長会議を開催予定(開催通知3.11発出)、R8.11月フォーラム開催で調整中。

総会

- | | |
|---|---|
| <p>■会長
富山 和彦
株式会社経営共創基盤IGPIグループ会長
株式会社日本共創プラットフォーム (JPIx) 代表取締役社長</p> | <p>■副会長
家田 仁
政策研究大学院大学 特別教授</p> |
|---|---|

実行委員会

国民会議全体の運営

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 企画部会
企画等 | 広報部会
インフラメンテナンス
理念普及・国民会議の広報 |
|-------------|------------------------------------|

インフラメンテナンス市区町村長会議

- 1) 区部長同士の意見交換による知見や意識の向上
- 2) トップダウンによるインフラメンテナンスの強力な推進
- 3) 社会に対するインフラメンテナンスの必要性の啓発

北陸ブロック インフラメンテナンス 市区町村長会議

R8・9ブロック幹事(石川県)
かほく市長

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 企画委員(新潟県)
新潟市長 | 企画委員(富山県)
氷見市長 |
|-------------------|-------------------|

構成員(参画)
新潟県内の市町村長
富山県内の市町村長
石川県内の市町村長

北陸 インフラメンテナンスフォーラム

フォーラムリーダー
長岡技術科学大学 丸山名誉教授

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 新潟ブロック
ブロックリーダー
新潟大学 佐伯教授 | 富山・石川ブロック
ブロックリーダー
金沢工業大学 宮里教授 |
|---------------------------------|--------------------------------------|

(構成員) 企業・行政等

公認フォーラム

- | | | | | | |
|--|--|---------------------------------------|---|--|--|
| <p>革新的技術</p> <p>オープンイノベーションによる異業種の連携や技術の融合、マッチング</p> | <p>自治体支援</p> <p>地方公共団体の課題解決、地方公共団体のニーズ・民間企業等のノウハウの情報交換</p> | <p>技術者育成</p> <p>地域における技術者育成の活動を支援</p> | <p>市民参画</p> <p>インフラやメンテナンスへの関わりを深めるための実践活動を展開</p> | <p>海外市場展開</p> <p>海外への情報発信や海外展開案件形成</p> | <p>地方フォーラム</p> <p>地方におけるオープンイノベーション推進等(全国10ブロック)</p> |
|--|--|---------------------------------------|---|--|--|

インフラメンテナンス市区町村長会議 全国大会 概要 (令和7年5月12日)



- 令和4年4月に設立した「インフラメンテナンス市区町村長会議」の全国大会を令和7年5月12日に開催。
- 大会では、老朽化等による大規模な事故の発生を未然に防止しつつ、大規模災害をもたらす自然現象が発生した場合においてもインフラが機能を発揮できるよう市区町村が継続的・安定的にメンテナンスを的確に行うため、地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）の推進や新技術の開発、国土強靱化対策における予算の確保、技術支援及び財政支援の強化等について決議。
- また、楠瀬 須崎市長（四国ブロック幹事）、竹本 豊川市長（中部ブロック幹事）、山本 益田市長（中国ブロック企画委員）から各ブロックにおける取組状況について意見発表された。

〈日 時〉 令和7年5月12日(木) 15:00～17:00

〈会 場〉 砂防会館別館（東京都千代田区）

〈参加者〉 出席者 約380名

〔来 賓〕 国土交通省（高橋副大臣、吉岡事務次官、廣瀬技監、中村技術総括審議官（ほか））
 （公社）土木学会（佐々木会長（ほか））、国民会議（富山会長、家田副会長、実行委員長（ほか））
 〔主催者〕 市区町村長会議 代表幹事、ブロック幹事、企画委員、構成員、各ブロック事務局

- 【第1部】**
- 主催者挨拶 高橋 勝浩（市区町村長会議 代表幹事／稲城市長）
 - 来賓祝辞 高橋 克法（国土交通副大臣）
富山 和彦（国民会議 会長／関西経営共創基盤IGPIグループ会長）
 - 記念撮影
 - 意見発表 楠瀬 耕作（四国ブロック幹事 須崎市長）
竹本 幸夫（中部ブロック幹事 豊川市長）
山本 浩章（中国ブロック企画委員 益田市長）
 - 議事：決議【活動計画（案）、決議（案）】
- 【第2部】**
- 特別講話 廣瀬 昌由（国土交通省 技監）
家田 仁（国民会議 副会長／政策研究大学院大学 特別教授）
佐々木 葉（（公社）土木学会 会長）
植野 芳彦（富山市政策アドバイザー）

■記念撮影



【第1部】

- 主催者挨拶
- 来賓祝辞



代表幹事
稲城市長 高橋 勝浩



国土交通副大臣
高橋 克法



国民会議 会長
富山 和彦

■意見発表



四国ブロック幹事
須崎市長 楠瀬 耕作



中部ブロック幹事
豊川市長 竹本 幸夫



中国ブロック企画委員
益田市長 山本 浩章

【第2部】

■特別講話



国土交通省 技監
廣瀬 昌由



国民会議 副会長
家田 仁



（公社）土木学会 会長
佐々木 葉



富山市政策アドバイザー
植野 芳彦

令和8年5月14日に全国大会開催予定

【令和7年度】第4回 北陸ブロック インフラメンテナンス市区町村長会議

- ◆ 令和7年6月30日にインフラメンテナンス国民会議の傘下組織「北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議」において、第4回の会議が開催されました。
- ◆ インフラの維持管理の課題の解決のため、本省(森下課長)及び北陸インフラメンテナンスフォーラム(宮里富山・石川ブロックリーダー)より講演をいただき、出席した首長との意見交換が行われました。

【開催概要】

日時: 令和7年6月30日(月)13時00分~14時30分
場所: 氷見市役所 全員協議会室
参加者: 39自治体 現地・WEB含む

【プログラム】

- 1. 開会挨拶**
北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議
幹事 氷見市長 菊地 正寛
- 2. 祝辞**
国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課
課長 森下 博之
- 3. 北陸ブロック会議 概要説明**
氷見市 建設部 ふるさと整備課 課長 河端 良之
- 4. 講演**
 - ・国土交通省のインフラメンテナンスに関する取組について
国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課
課長 森下 博之
 - ・市町村のインフラメンテナンスの現状と北陸SIPの取組について
金沢工業大学 工学部 環境土木工学科
学長補佐・研究部副部長 教授 宮里心一
(北陸インフラメンテナンスフォーラム富山・石川ブロックリーダー)
- 5. 意見交換**
- 6. 閉会挨拶**
北陸ブロックインフラメンテナンス市区町村長会議
企画委員 かほく市長 油野 和一郎



令和8年7月28日に北陸ブロック会議開催予定

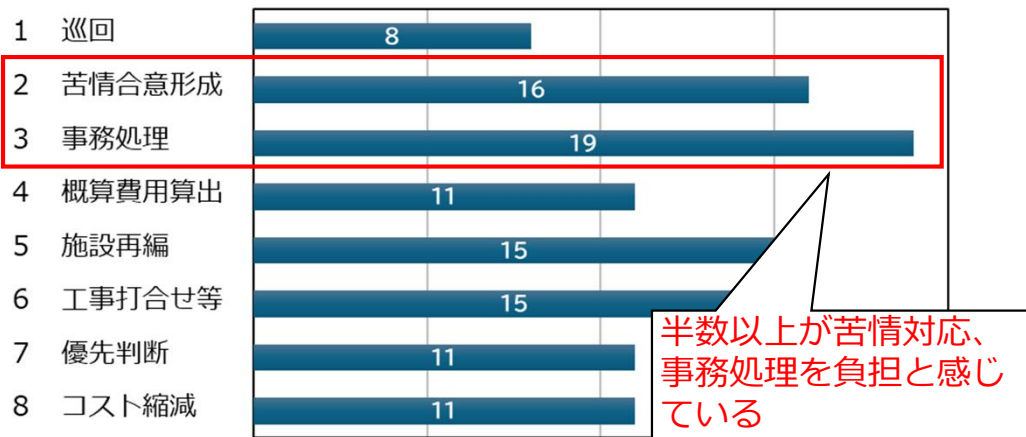
議題 1：群マネの全国展開に向けて

①アンケートや実態調査等 県内30市町村対象（複数回答可） ②群マネに関する勉強会の実施

維持管理業務における懸案事項



維持管理業務における負担業務(抜粋)

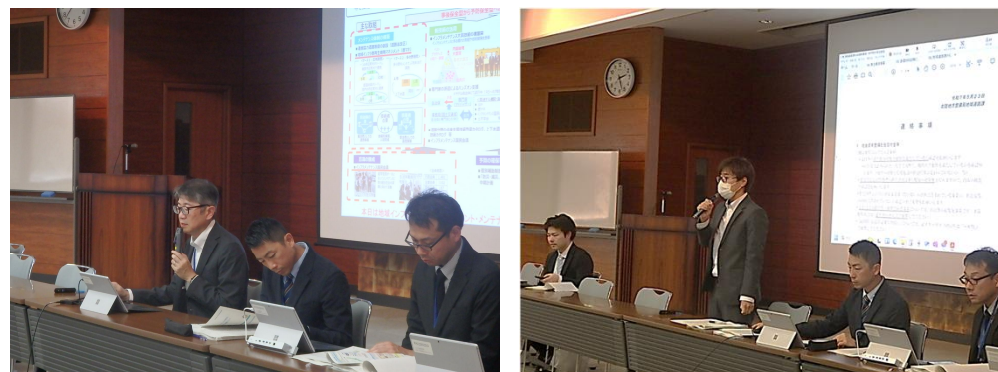


自由意見

- 設計書作成等は当市は1人で行っているため、通常の道路管理業務と並行して、点検業務、実施設計、修繕工事の設計書作成、打合せ等を進めていくのに非常に苦勞している
- 担当職員が技術職でなく、専門知識がないため指示・判断に苦慮することが多い

令和7年5月23日

群マネに関する話題について（講師:北陸地方整備局）



令和7年11月11日

地域インフラ群再生戦略マネジメントに関する研修会
(講師(先進事例):奈良県、奈良県宇陀市、見附市)



令和8年2月4日

令和7年度 副町村長会議

効率的・効果的なマネジメント手法等について説明

12. 新たなインフラマネジメントについて

議題2：効率的・効果的なインフラマネジメントに向けて

①他自治体にも是非教えたい、管内の先進的取組（業務効率化に資する具体例）

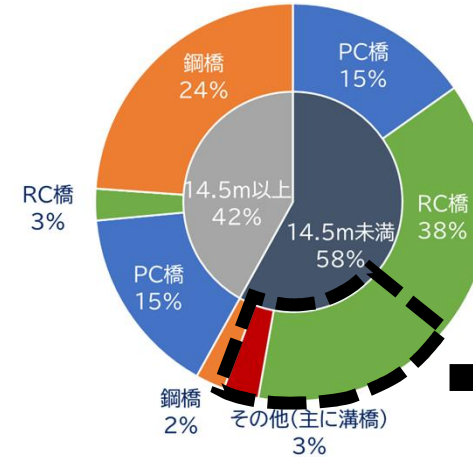
■ タブレット端末を活用した小規模橋梁点検

これまで

- ・ 橋長14.5m未満の小規模橋梁の点検は建設コンサルタントが県の定期点検要領(小規模橋梁編)により実施
- ・ 橋長が比較的長い橋梁の補修を中心的に実施し、小規模橋梁の補修着手数の伸び悩み

【課題】

- ・ 建設コンサルタントの担い手不足への対応
- ・ 小規模橋梁の補修着手数の増加



[タブレット点検対象]
小規模橋梁のうち

- ・ 溝橋
- ・ 路線重要度及び損傷リスクの低い床版橋

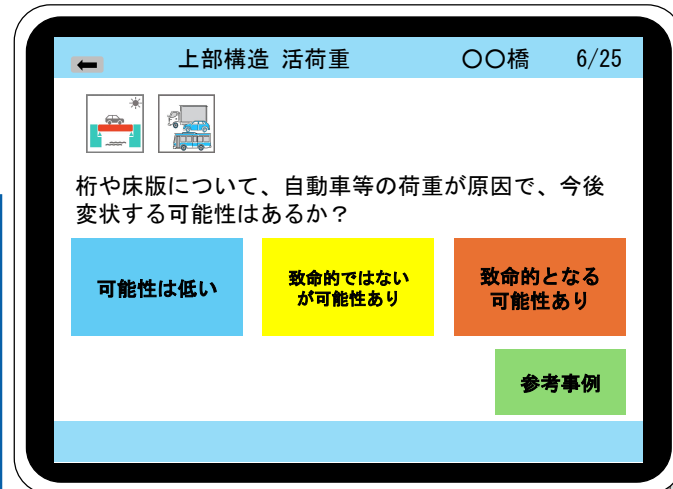
935橋
(約23%)

タブレット端末を活用した小規模橋梁点検

- ・ 比較的簡易な構造の溝橋やRC床版橋を対象
- ・ 25の設問に回答することで橋梁の健全度を把握するタブレット端末で点検を実施し作業を効率化
- ・ 溝橋やRC床版橋の施工実績がある地元建設業者に点検を依頼し「橋守」としての役割を期待
- ・ これまでにR6・R7の2年間で422橋の点検を実施

【講習会の開催】

- ・ 横展開を期待して市町村職員も交えた講習会開催



タブレット画面
(イメージ)



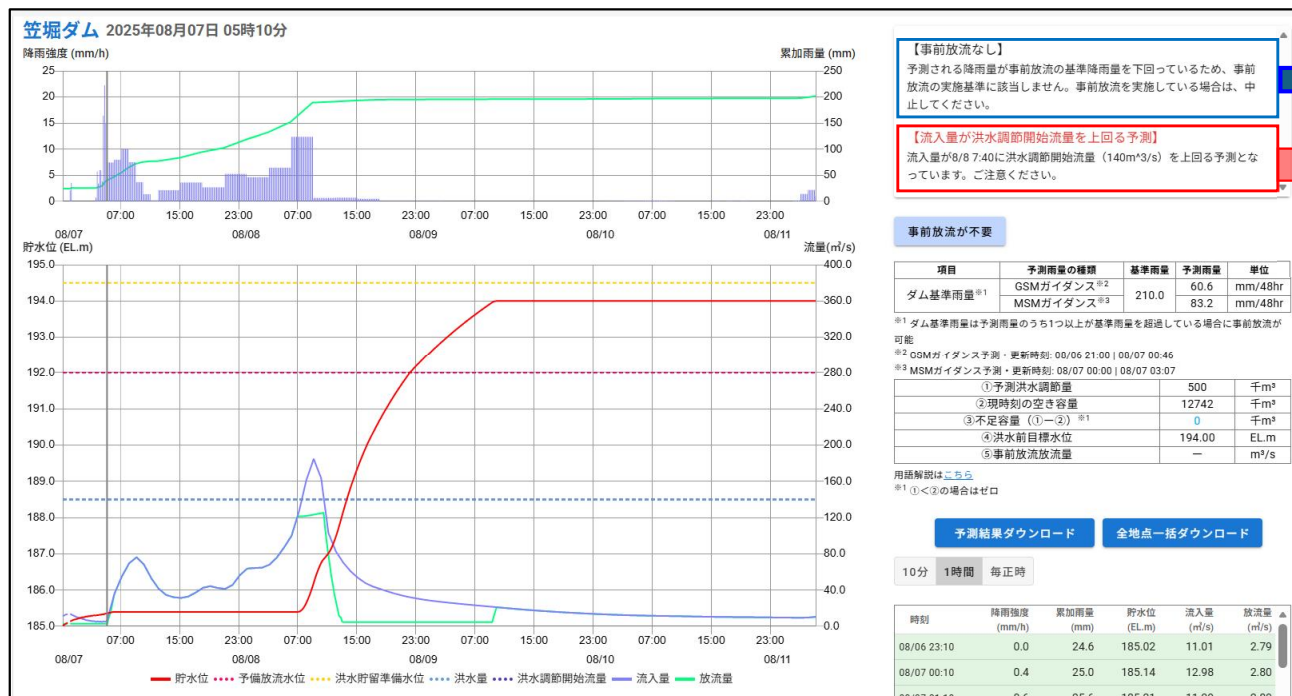
受注者や市町村職員対象の講習会6

【議題2】 効率的・効果的なインフラマネジメントに向けた取り組みについて

- 人工知能 A I を活用してダム管理の高度化を進め、激甚化する豪雨への対応力を高める
- A I でダムへの流入量を予測し、円滑な事前放流の実施や緊急放流の予測精度を向上
- ダムの能力を超える洪水に対しても住民の迅速な避難行動つなげ、被害を最小限に抑えるもの
- ダム操作の支援情報を適時提供することで、操作職員の負担を軽減

【実施内容】

- 迅速かつ的確に事前放流を実施するため、洪水調節にゲートの操作が必要な10ダムにおいて、AIを活用した流入予測システムを導入



事前放流の判断に必要な情報を表示
 ≪操作職員を支援し、負担を軽減≫

【例】予測降雨量が基準降雨量を超え、さらに予測洪水調節量が空き容量を上回っています、事前放流を実施してください。

【流入量が洪水調節開始流量を上回る予測】
 流入量が8/8 7:40に洪水調節開始流量 (140m³/s) を上回る予測となっています。ご注意ください。

※予測が出た時点で関係者にメール送信

← R7.8.7 05:10の笠堀ダムの例
 翌8.8 07:40に洪水量を上回る予測
 ※実際は 8.8 03:50に洪水量に到達

「新潟県ダム洪水予測システム」の画面

【議題2】 効率的・効果的なインフラマネジメントに向けた取り組みについて

○ 河川海岸の維持管理に係る情報をDB化して一元管理する「新潟県河川海岸維持管理システム」の構築

これまで

河川海岸の維持管理では「河川海岸巡視」、「堤防・施設点検」、「河川除草」、「掘削・伐木」、「河川海岸施設補修」、「地元要望・苦情対応」など、膨大なデータを取り扱う一方で所属や担当によってデータ等の保存方法が異なっていた



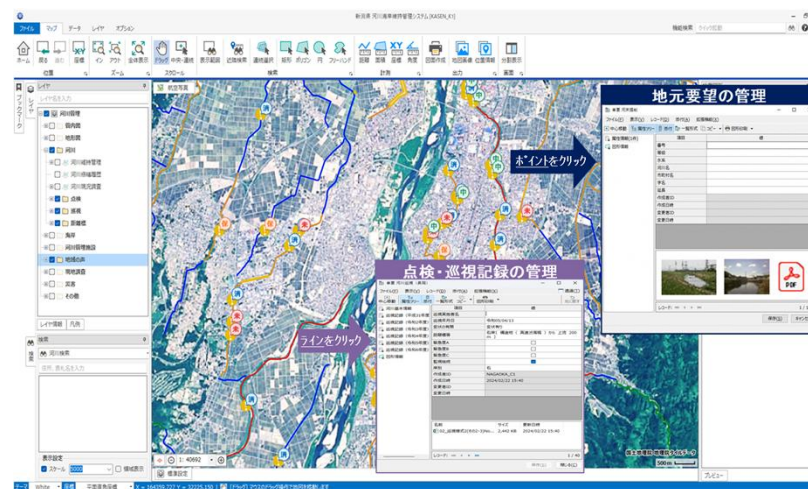
【課題】

属人的なデータ管理により

- ✓ 欲しいデータを探すのに時間を要する
 - ✓ 修繕や住民対応の履歴が分からない
- など、業務に支障が生じていた

「新潟県河川海岸維持管理システム」による管理（R2年度～）

- 河川をデジタル化し、河川DBとリンクさせることで地図上での情報管理実現
- システム上では河川を「ライン」で要望箇所等は「ポイント」で表示することで、容易に情報を管理



河川名、海岸名、延長、河川台帳図、施設台帳、災害履歴、点検・巡視記録、工事・修繕記録、住民苦情、現地調査結果 …等

- タブレット機能を追加し堤防点検に活用（R5～）

- 堤防、樋門・水門点検時にタブレットを携帯することで、現地で情報の入力が可能
- 撮影した写真に位置情報を埋め込むことが可能
- 帰宅後、様式への再入力の手間がかからない

- GPS
- カメラ
- 背景地図(地理院地図、航空写真)
- マップ上で図形(ポイント)を作成
- 点検・現地調査結果の入力
- ペイント(ペン)手絵の作成
- 位置図の作成



➔管理データの集約等により職員の負担軽減へ

12. 新たなインフラマネジメントについて

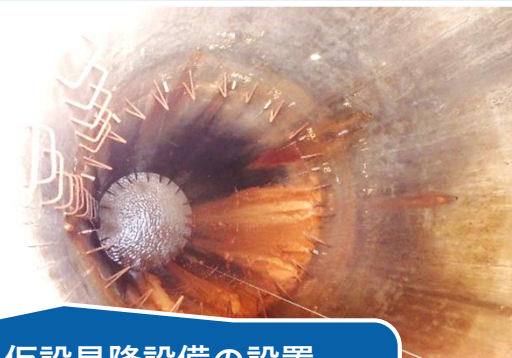
議題2：効率的・効果的なインフラマネジメントに向けて

①他自治体にも是非教えたい、管内の先進的取組（業務効率化に資する具体例）

○「集水井点検カメラ」の活用による点検の効率化(H27～、約1,200基)

これまで

- 従来の点検では、集水井内に作業員が立ち入る必要があったため、安全確保に課題があるほか、1基あたりの点検に時間を要するなど、作業効率の面でも課題があった。
- これらの課題を解消するためには膨大な予算が必要となることから、集水井内の点検は実施が困難な状況であった。



- 既設昇降設備の老朽化 ⇒ 仮設昇降設備の設置
- 井戸内の酸素濃度確保 ⇒ 換気設備の設置
- 照度が低い ⇒ 照明設備の設置

点検カメラを活用した集水井の点検

- 課題解消のため「集水井点検カメラ」を導入
⇒集水井点検口からカメラを降下。
井戸内の状況をリアルタイムで確認可能。
- 作業員が井戸内に立ち入ることなく点検が可能となり、安全性が大幅に向上した。
また、高解像度画像により点検精度が向上し、短時間で効率的な点検が可能となった。
- 地すべり防止施設点検業務に係る特記仕様書により、集水井内の点検はカメラを使用することを標準化した。



- カメラで撮影した集水井内のリアルタイムの映像をタブレットにより確認可能



- 集水井点検口からカメラを降下
- 集水井内に作業員が立入ることなく、安全に作業が可能

12. 新たなインフラマネジメントについて

議題2. 効率的・効果的なインフラマネジメントに向けて

○ 県立都市公園における取組

公園管理の現状

- 公園の供用から20年以上が経過し、施設の老朽化が進行している
- 利用者の安全確保のため、早期の対応が求められる
- 人件費や光熱費の向上により、管理費用も増加

⇒ 限られた予算の中で、**効率的・効果的なインフラマネジメントを行うことが必要**

長寿命化計画等の策定と活用 (R5~)

公園施設の健全度評価を行い、長寿命化計画を策定
 → 指定管理者と情報共有しながら**随時更新**

- 全ての県立都市公園を対象とした計画の他、**大規模施設**（スタジアム、野球場、植物園温室）の長寿命化計画を策定
- 各施設の**基本情報、修繕・更新履歴の一覧**（年次計画表）を**施設管理者と共有**し、施設の**状態や修繕・更新の実施状況を把握**

⇒ 計画の見直しサイクルは10年となっているが、**施設の状況により随時見直しを実施**

施設の計画的な補修・更新

限られた予算の中で、老朽化施設の適切な補修・更新の実施

- 施設の優先度を考慮したメリハリのある補修・更新の実施
- 施設の**延命措置の実施**

■ スタジアムの屋根鉄骨については、**高圧洗浄による錆落とし等延命措置を実施**



新技術等の導入検討 (R6~)

管理の省力化・管理費の削減に向けた新たな手法の検討

- **ドローンによる洗浄**：水噴射で塩分除去
- **温水による除草**：手取りの手間を削減



12. 新たなインフラマネジメントについて

議題2. 効率的・効果的なインフラマネジメントに向けて

○ 下水道管路調査業務（令和7年度実施の全国特別重点調査）における新技術の導入

これまで

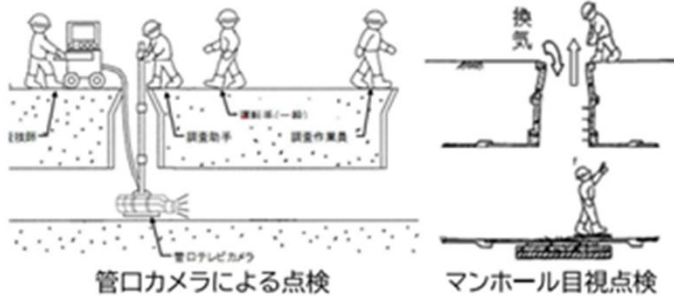
目視やテレビカメラにより管の内側から調査。

管の周辺の空洞などは確認できず、陥没の危険性を十分に把握できなかった。

▼ 従来の点検手法

○下水道の維持又は修繕に関する技術上の基準（下水道法施行令第5条の12）

・公共下水道及び流域下水道の点検は、その構造等を勘案して、適切な時期に、目視その他適切な方法により行うことを規定。



今回の調査での点検手法

これまでの調査手法に加え、レーダ探査による管路内からの地盤空洞調査（「上下水道DX技術カタログ」掲載）を行い、陥没の危険性の有無を直接確認。

▼ 全国特別重点調査で提示した管路調査手法例



潜行目視調査



ドローンによる調査

▼ 全国特別重点調査で提示した空洞調査手法例



地上からの簡易貫入試験



管路内からの地盤空洞調査

出典：第4回 下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会 資料



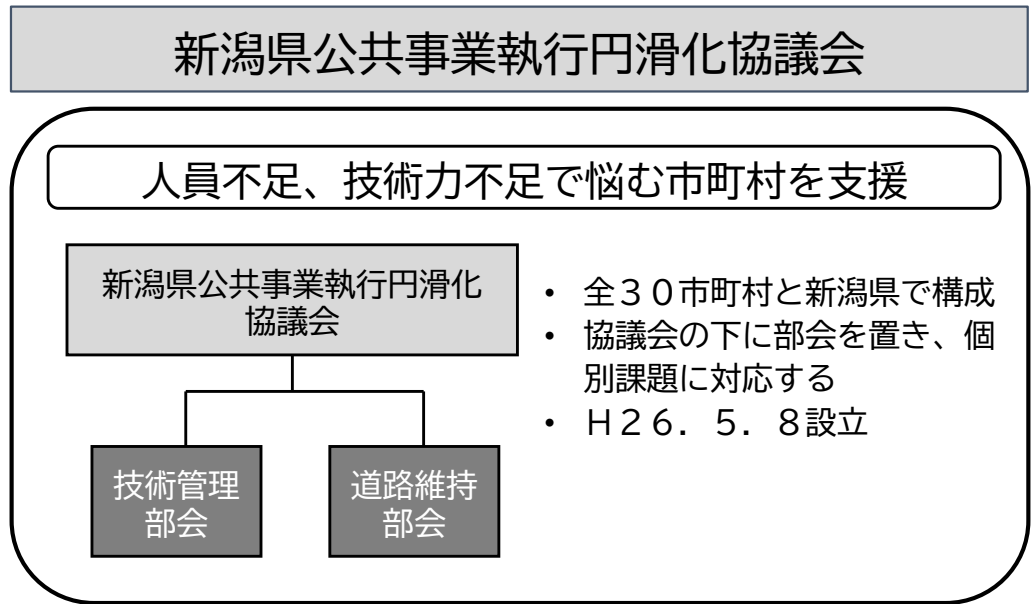
上下水道DX技術カタログ（国土交通省）



【今回】新潟県流域下水道
管路内からの地盤空洞調査の様子 11

議題 2： 効率的・効果的なインフラマネジメントに向けて

②他自治体にも是非教えたい、各都道府県からの市町村支援の取組



道路維持部会

○橋梁点検・補修講習会の実施

- ・小規模橋梁の補修に関する講習会
- ・市町村道メンテナンス事業担当者意見交換会 等



- ・小規模橋梁簡易補修工法判定資料(案)

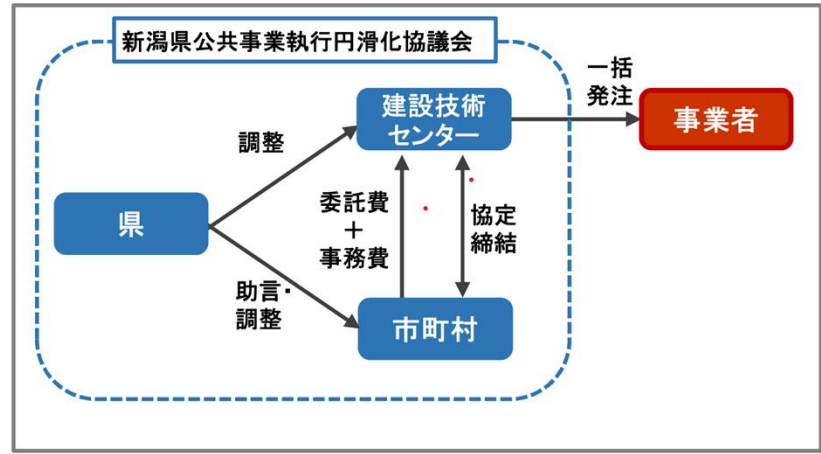
新潟県内における市町村が管理する小規模橋梁について、効率的な補修を行うことを目的に作成

【市町村向け】
小規模橋梁簡易補修工法判定資料(案)

令和5年2月

新潟県での群マネの取組

(一財)新潟県建設技術センターが点検業務を一括発注



全30市町村のうち、これまでに21市町村が参加

■インフラメンテナンス（群マネ）に関する意向調査

- ・ 調査時期：令和8年3月
- ・ 対象：県内15市町村
- ・ 調査内容：群マネに取り組む意向
連携したい業務内容
連携開始の希望時期
各市町村が抱える課題



■連携を希望する自治体と個別ヒアリング（R8.4～）

- ・ 束ねる業務や連携体制を協議
- ・ 連携開始までのスケジュールの共有
- ・ 業界との調整

■群マネに関する勉強会

R6年度～ 国、県、市町村と勉強会を開催（3回）

- ・ 群マネの考え方
- ・ 各自治体が抱える課題の共有
- ・ 先行事例の紹介（静岡県、奈良県）
- ・ 「群マネの手引き」の解説



令和7年度インフラメンテナンスに関する勉強会



県と魚津市の垂直連携の試行（R8年度～）

R8年度

勉強会を開催予定

- ・ 県と魚津市の試行状況や個別ヒアリング状況を共有

連携を希望する自治体ができれば調整を図っていく

○対策の優先度の設定や計画的な集約・再編

- ・ R 7 年度から、人口減少社会等へ適応するため、「未来へつなぐ行政サービスのあり方検討会」を設置し、県庁全体で持続可能な行政サービスの在り方を未来志向で検討中。
- ・ **R 8 年度に「未来へつなぐ持続可能なインフラマネジメントのあり方検討WG」を設置。**

第 1 回未来へつなぐ持続可能なインフラマネジメントのあり方WG から抜粋

令和 8 年 4 月 2 1 日
第 1 回持続可能なインフラマネジメントのあり方検討WG

資料 3

議論の方向性①

- ・ 持続可能なインフラマネジメントへの方向転換
- ・ **まずは道路・橋梁を中心に、持続可能な道路ネットワークのあり方について議論**

論点の整理 (案)

多数の橋梁をどのように維持管理・更新していくべきなのか。

- 1) 優先順位の考え方・指標(路線の重要性、交通量、健全性、迂回路の有無、橋の機能…)
 - ・ 撤去、集約の可能性、橋梁の点検方法・維持レベル(コンクリート標準示方書記載の…)
 - ・ 国道156号のような、直列配置同時高齢化橋梁軍団にどう立ち向かうか。
- 2) 限られた道路事業予算をどのように配分していくのか。

議論の方向性②

- ・ 方向転換には、「県民のインフラに対する理解と意識の醸成」が必要
- ・ **「自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成」について議論**

論点の整理 (案)

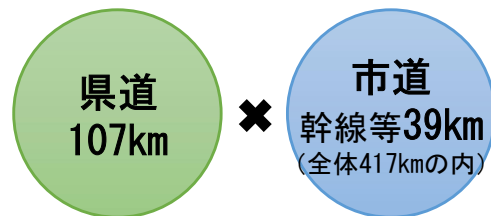
インフラの将来像の「自分事化」を推進するためには、どうすればよいのか。

- 1) インフラの重要性を県民に理解してもらう方法
- 2) 県民自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成方法

○市町村支援の取組（県内初の群マネ）

R8年度～ 県と魚津市の垂直連携の試行実施

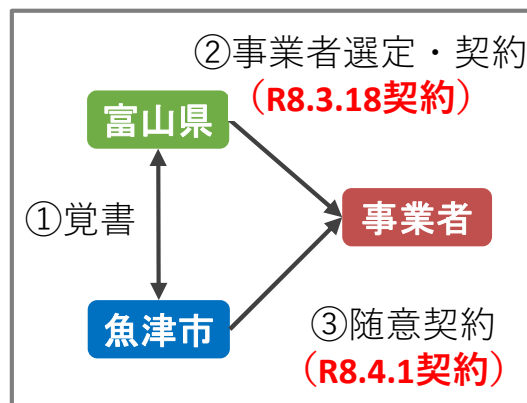
- ・ 道路維持管理業務（パトロール、路面補修）
- ・ クラウド型システムを用いた維持管理情報の共有



市側が期待する効果

○これまで対応に要していた時間の縮減

- ・ 直営パトロールの民間委託
- ・ 個別に行っていた少額随契業務の集約化
- ・ 県との覚書に基づく随契により、入札手続きを簡素化



<連携スキーム>

○市町村支援の取組（県内初の群マネ）

連携前 (R8. 3. 27実績)

※市は連携後のコースを走行すると想定

総走行距離：約 1 9 8 km

(県道：西 7 3 km、東 6 4 km)

(市道：6 1 km)

総作業時間：約 5 0 3 分

(県道：西 2 1 0 分、東 1 7 3 分)

(市道：1 2 0 分)

連携後 (R8. 4. 3実績)

約 1 8 6 km

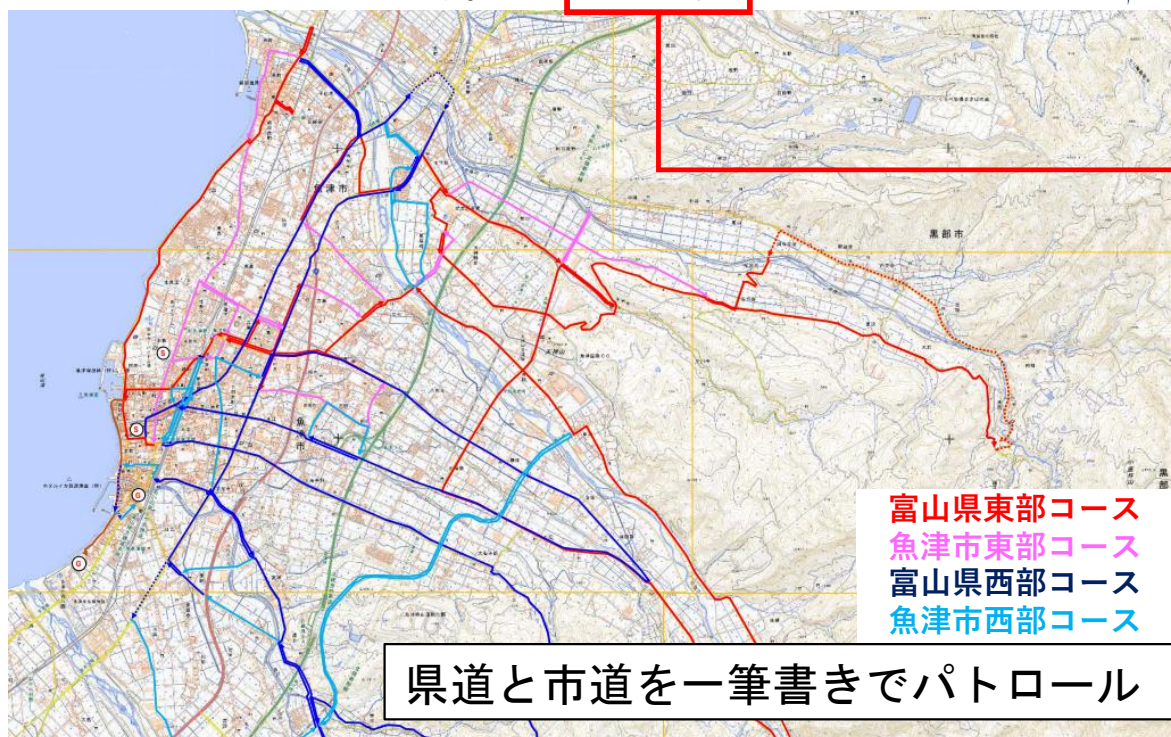
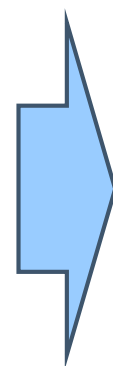
(県・市道：西 9 7 km、東 8 9 km)

1 2 km減少

約 4 6 0 分

(県・市道：西 2 3 6 分、東 2 2 4 分)

4 3 分短縮



市は直営で行っていたパトロールに要する時間を**別業務に従事**できるようになった

【石川県】効率的なインフラマネジメントの取組

群マネの取組

- ・技術職員や地元建設事業者が減少する中で、他分野のインフラを「群」として捉え、連携することで持続可能な社会インフラの維持管理体制を構築
- ・本県では、R8年度より試行的に道路橋と添架されている水道管について、点検の一括発注を予定。

対象範囲

業務プロセス インフラ分野	日常維持管理業務		構造物の定期点検関連			
	窓口業務	維持作業	計画策定	点検	設計	工事
道路	受付	巡回補修 清掃 除草 剪定	橋梁	橋梁	橋梁	橋梁
			トンネル	トンネル	トンネル	トンネル
			道路附属物	道路附属物	道路附属物	道路附属物
			舗装	舗装	舗装	舗装
河川		除草	河川構造物	河川構造物	河川構造物	河川構造物
公園	受付	除草・剪定・補修	遊具	遊具	遊具	遊具
水道			管路施設	管路施設	管路施設	管路施設
その他	受付	排水路	農道・林道 臨港道路	農道・林道 臨港道路	農道・林道 臨港道路	排水路

従来は、道路、水道それぞれで業務を発注・管理

連携体制

インフラ分野の枠を越えてマネジメント

	道路管理者 (県)	水道管理者 (県)
Before	橋梁点検	水道管点検
After	橋梁・水道管点検	

期待する効果

発注者…発注業務や管理業務の効率化

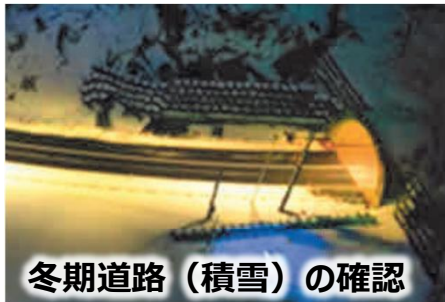
受注者…業務の段取りや人員確保の効率化

【石川県】効率的なインフラマネジメントの取組

自律飛行型ドローン

12箇所のドローンポートを核に、**自律飛行型ドローン**による効率的なインフラマネジメントの実現に向けて、**実証実験**を実施

R7 実証内容



冬期道路（積雪）の確認



河川の体積土砂の確認



地すべり防止地区の確認



R8 実証内容（予定）



路面状況の確認（AI解析による変状確認に活用）



海岸線の護岸等の確認（AI解析による変状確認に活用）



災害時・平常時での活用を視野に実証を進め、**即時性**や**正確性**の改善を検討

感謝とお願い

能登半島地震・豪雨災害では、航空レーザー測量による地形データ・オルソ画像を速やかにご提供いただき、調査・設計に大いに活用できました。引き続き、災害時の迅速かつ有用なデータの提供と、上記に係るアドバイス等も併せてお願いしたい。

テーマ3 新たなインフラマネジメントについて

1. 効率的なマネジメントに向けた橋梁点検へのタブレット端末導入

- 市が管理する約4,000橋の健全度を、市独自でA～Eまでの**7段階**に分類し、管理区分と管理水準を考慮し、メリハリあるインフラマネジメントを実施
- 約70%以上を占める小規模橋梁では、**タブレット端末による簡易点検**を導入することで効率化を図っている

管理区分	道路ネットワークの重要性に関する主な区分	対象橋梁数 R7末時点	健全度の管理水準(7段階は市独自の区分)						
			I	II	III	IV	← 7段階		
1	緊急輸送道路1次 交通量2万台/日以上 (県道白山停車場支線 昭和大桥 等)	61橋	A	B1	B2	C1	C2	C3	E
2	緊急輸送道路2次・3次 交通量5千～2万台/日 (国道403号 矢代田跨線橋 等)	422橋	維持する健全度			対策を実施する健全度			
3	重要市道 交通量1千～5千台/日 (市道新光町環状線 本橋大橋 等)	700橋							
4	上記以外の道路橋 (市道西川1-645号線 熊名橋(1264) 等)	2,736橋							
	合計	3,919橋							



写真1 タブレット点検の様子

図1 管理水準の考え方

より効率的に点検を進めるため、**タブレット点検を導入**

3. 点検と併せた簡易補修

- 小規模橋梁においては、点検と同時に、点検業者が露出した鉄筋への錆止め塗料による簡易補修を実施
- 点検後、修繕までに時間を要していたところ、迅速な修繕対応により、**将来の修繕費縮減**を図る



写真2 簡易補修の様子

4. 小規模橋梁の集約・撤去の進め方

- 小規模橋梁が多い区では、対象地域の住民と橋のあり方にかかる意見交換を進めている
- 維持管理の状況や集約・撤去の考え方を地元住民と共有し、**将来に向けた市民理解の醸成**を図っていく

2. タブレット点検の導入効果

- 建設コンサルタントによる1巡目点検と、タブレットによる2巡目点検を費用比較すると、2巡目点検は**約90%削減**

表1 小規模橋梁の点検費用

項目	①1巡目点検 (2014～2018)	②2巡目点検 (2019～2023)	差額 (②-①)	2巡目点検の 費用割合 (②/①)
点検数	2,730橋	2,741橋	11橋	-
点検費用	3.9億円	0.4億円	-3.5億円	10%
1橋あたりの 点検費用	14.2万円	1.5万円	-	-

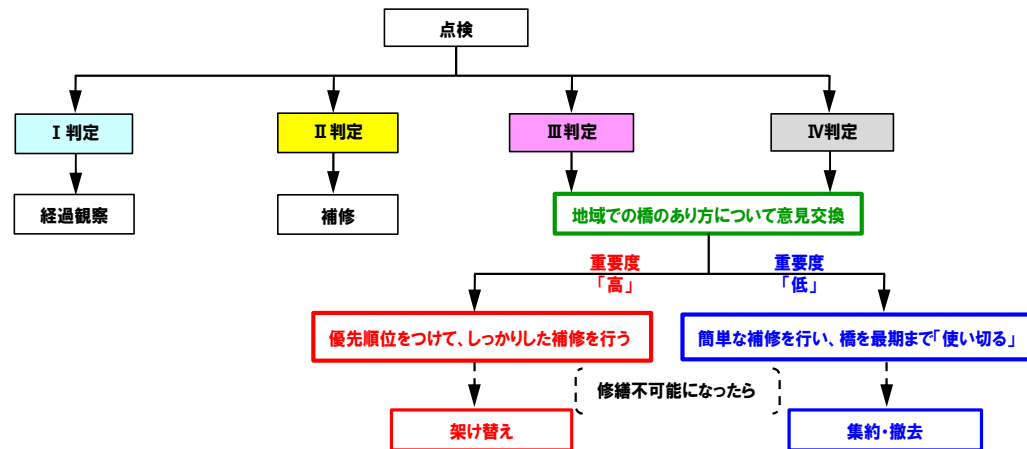


図3 管理区分4の橋梁の点検から修繕までのフロー